

研究討議会名（低学年 A 討議会） 司会者（ 城戸 美波 ） 記録者（ 飯島 香織 ）  
授業者（ 一木 美紗 ）（ 若生 由美子 ）  
指導助言者（ 今西 榮 ）

### 1-1 一木先生「せんのぼうけん」

#### ①授業者より

- ・描く時に向きの指定をしなかったため、くっつけた時に向きにこだわってうまく描けない児童がいた。
- ・児童達が積極的で意欲的に活動していたため、くっつけてからの、共有時間をもっと取ればよかった。

#### ②主な意見・指導助言

- ・教材の工夫（自分の分身、おうちのマジックテープ、シール等）が凝らされておりよかった。
- ・児童たちが、それぞれの物語を持って線を描いていた。「緑色の線は草の所」とつぶやきながら描く児童 等
- ・児童とのコミュニケーションが、よく取れていた。
- ・パスの特性、線の種類（細→太、破線、くるりんみち、くねくね道）等もあることを共有すると、より可能性が広がったかもしれない。
- ・「自分の人形を持って、お友達の世界に遊びに行っておいで～」と言われ、とても楽しそうに活動する児童の様子から活動の**広がり**が見取れた。

### 1-2 若生先生「わくわく どきどき かみとなかよし」

#### ①授業者より

- ・好きに活動するのが苦手な子が多いと聞いていたので、黒板にこうすればこうなると示した。
- ・共有の時間を2回取る中で、友達の良さを見つけて声かけする姿や、真似をする姿がみられてよかった。

#### ②主な意見・助言者より

- ・授業後、薄葉紙を教室に置いておき自由に遊んでいいよという風にする、今後もっと遊びが発展するかもしれない。その休み時間の様子を写真などで記録しておいて、次時につなげることも出来るのではないか。
- ・一度遊んだ後に、枚数を増やしていいよと段階を踏んだことで遊びの**深まり**があつてよかった。大きさの違う薄葉紙を用意したりしても、より活動が深まったのではないか。

#### 指導助言

- ・児童の活動が、**深まり**を感じ取る物と、**広がり**を見とるものと2種類あつたのでよい授業発表だった。授業を組み立てる際も、児童の活動の「ひろがり」と「ふかまり」を想定して、評価の基準をさだめるとよい。
- ・活動をする時の約束として、だめなことを黒板に書かない。できれば、ここを目指そうというポイントを書きめあてとして共有し、児童が迷った時は「黒板見て」と示したり、評価の基準としてもっておいたりする方がよい。
- ・低中高と児童の発達段階に応じて題材を決めたり、評価のポイントとする。活動のキーワードは、  
低＝集める・並べる・配置する  
中＝重ねる・混ぜる・組み合わせる  
高＝関係付ける・遊ぶ・変える →学習指導要領に書いてある。（表現の育ちが示された資料）